



## 第4回 島根県立大学

昨年度に続いて、高校の先生方へのアンケートで評価の高い大学を紹介するシリーズ。今回は、「就職指導、キャリア教育に力を入れている」という印象のある大学として評価されている、島根県立大を訪問した。

### 「問題発見、解決策の立案、実践を行う学問」としての総合政策学とキャリア支援を充実させ 変化し続ける時代に対応できる学生の育成を目指す

島根県立大学は、2000年に島根県浜田市に開学した大学（総合政策学部1学部）で、2007年には島根県立島根女子短期大学（松江キャンパス）、島根県立看護短期大学（出雲キャンパス）を統合して、「公立大学法人・島根県立大学」として新しいスタートを切った。

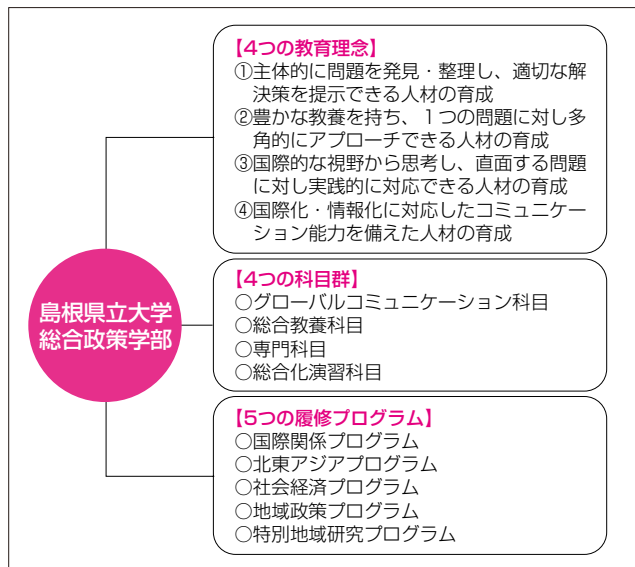
島根県立大学は、高校の先生方から「徹底したキャリア教育を行い、良好な就職実績をあげている」「例年高い就職率を維持している」といった点が評価され、「カリキュラムを改編し、今後が楽しみ」と期待されている。

今回は、総合政策学部の教育内容と、教育を通じた学生のキャリア観育成のための取り組みについて、学部長の別枝行夫教授、教務部長の渡部望教授、教務学生課長の遠藤孝史氏、キャリア支援室室長の福代美保氏に話を聞いた。

アジア地域＝環日本海諸国との交流や研究の重視、県立大学として地域の発展を支えていくことを目標とした。

そして総合政策学部として4つの教育理念を定めた【図表1】。渡部教務部長は、「①については、最近では多くの大学が類似する教育目標を定めていますが、本学部は、2000年という早い時期から掲げています。②の中の『多角的なアプローチ』は、総合政策学部として、設立当初から教育プログラムとしての学士課程教育を行おうと考えていました。③については、北東アジア諸国に加え、太平洋を挟んだアメリカを重視しています。④は、英語に加え、第二外国語として中国語、韓国語、ロシア語などを指定し、北東アジア地域の語学教育に力を入れています」と、理念

【図表1】 島根大学の教育理念、科目群、履修プログラム



### 大学の立地と学生の気質や進路に応じた独自の総合政策学を目指す

2000年の開学時に、島根県立大学が目指したのは、「知的体力」を有する人材の育成、すなわち多様化・複雑化した現代社会において諸問題の解決に向け、主体的に取り組むことのできる人材の育成である。ほかに、島根県という立地から、中国、朝鮮半島、ロシア極東地域など、北東ア



別枝行夫教授

渡部望教授

遠藤孝史氏

福代美保氏

を定めた理由を説明する。

理念を実現するには、どのようなカリキュラムを作っていくかが鍵となる。別枝学部長は「地方に立地する比較的 student 数の少ない大学であり、教職員の目が学生によく行き届くこと、北東アジア地域研究が特徴であること、学生の進路から、総合政策といっても行政職だけでなく一般企業に就職しても、直面した問題に対する提言をしたり解決できる人材の育成を意識して、手直しを重ねながら本学らしいカリキュラムを構築しました」と語る。

### 教育理念に対応した科目群の設置と 5つの履修プログラムで知的体力のある学生を育成

具体的には、授業科目を4つの科目群に分けて、教育理念と対応させている。

すなわち教育理念①は、「総合化演習科目（ゼミ）」において実現を目指す。これは、1～4年次までの必修科目で、4年間を通じて少人数のゼミで学ぶというものである。「ゼミでは、4年間を通じて問題発見・解決の力を身につかせます。また、その集大成である卒業研究も必修です」（渡部教務部長）。教育理念②は、総合教養科目と専門科目において力をつけ、教育理念③と④は、グローバルコミュニケーション科目において、育成を目指す。

そして2007年にはカリキュラムを改訂し、新たに「5つの履修プログラム」を導入した。その理由について、別枝学部長は、「開学以来10年たち、教育内容を時代に合わせたいということと、本学として独自の『総合政策学』を作りたいと考えたからです。当時、中央大学や慶應義塾大学などに総合政策学部があり、開学当時はそれらの大学のカリキュラムを参考にしました。しかし、本学の立地や学生の志向を考え、本学独自の、より学習者の視点に立ったカリキュラムが必要ではないかと考えたのです。

本学で学ぶ学習者の視点から、『総合政策学』については、『問題発見、解決策の立案、実践を行う学問』として

位置づけました。社会の中で問題や課題を見つけ、それについて取り組みたいというポリシーを持つ人間ということです。なお、これは本学の教育理念①とも密接に関連します。また、科目選択に関しては当初は多様な選択科目の中から、学生自身がカリキュラムを作るシステムでしたが、学生にとっては難しかったようです。かといって、

教員が学ばせたいことと学生がやりたいことは違いますし、カリキュラムの縛りを強くすると学生の自主性は育まれません。そこで、ある範囲の中で自由な科目選択が可能な『履修プログラム』を設定したのです」（別枝学部長）

学生はプログラムに分かれて学ぶとはいえ、プログラム間は緩やかにつながっている。多くの科目が複数のプログラムの履修科目に指定されており、各ゼミもそれぞれ2つのプログラムに対応することを基本としている。従って、講義でも演習でもゼミでも、異なるプログラムの学生が机を並べて学習することになる。

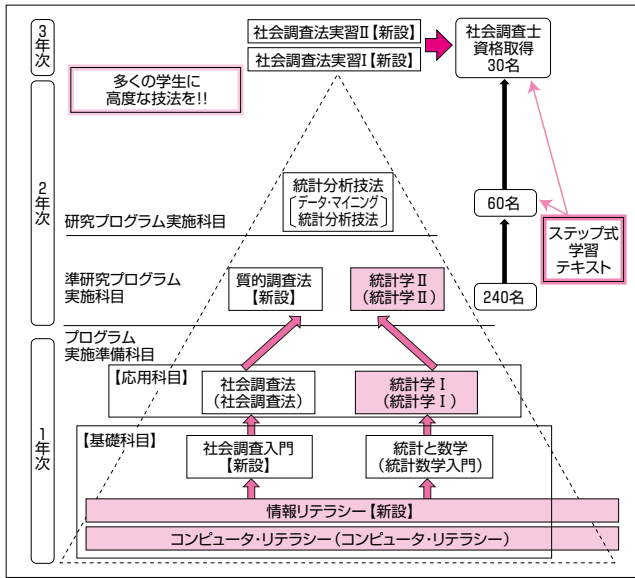
なお、総合化演習科目のうち、4年次の卒業研究では、毎年1月に「優秀卒業研究発表会」を、さらに卒業式前には日本国内の地域貢献に関する内容を含んだ研究に特化した「卒業研究発表会」を開催している。2009年度の卒業生の中には第二外国語である韓国語も習得し、自ら脱北者にインタビューして、卒業論文にまとめた学生もおり、外国人学生も含め9名が、浜田市民をはじめとする県民が多く来場する「優秀卒業研究発表会」で発表した。

ほかに、カリキュラムとして特徴的なのは、情報教育である。統計学を充実させて、数字を使って社会の出来事を論理的に分析する力を涵養している。特に2009年度には文部科学省の「大学教育推進プログラム」に指定され、2010年春からは、【図表2】のように、段階を追って、社会調査法と統計学、その分析技法を身につけるプログラムが本格的に始動する。中でも「どんな仕事に就いても役立つ統計学をある程度は扱えるように」と「情報リテラシー」「コンピュータ・リテラシー」「統計学Ⅰ」「統計学Ⅱ」の4科目は必修とした。

### 総合政策の学びで培った力が 高い就職率として結実

同学部は開学10年余りにもかかわらず、2006～2008年度の卒業生平均就職率は99%、2009年度は98.1%という高

【図表2】情報教育におけるステップ式学習プログラム  
カリキュラム編成



注：   は必修科目

い実績を誇っている。また、企業からは「素朴でまじめな学生が多く、入社後に伸びる」との評価を得ているという。

キャリアセンター長を兼務する別枝学部長は、キャリア教育のポリシーとして「社会人としての基礎能力を含む、いわゆる学士力の育成を十分に行った上でのキャリア教育であるべきです」と語り、遠藤課長は「今、社会で問題となっているのは、就職率だけでなく就職後の定着率です。キャリアアップの転職を除けば、自分が選択した職業に長く従事できる人材を育てなければなりません。ですから、キャリア教育でも人間力・職業観の育成を重視しています。そのためには、自己理解に加え、将来を見据えること、つまり、政治や経済の動き、国際関係など、現在の社会の状況を正確に理解することが必要です。これはまさに、総合政策学部の学びです」と言う。

同時に、豊富なキャリア教育プログラムを用意している【図表3】【図表4】。まず、1年次の春学期（必修）、2年次の春学期（選択）、3年次の春学期（必修）と秋学期（選択）に、キャリア形成科目が配置されている。キャリア形成科目においては、外部講師による授業が約半分を占める。1年次の授業では、外部講師として、鳥根県出身の芸術家や経済人、僧侶、町役場の産業振興課の課長などさまざまな職業人を招いて、講師の職業観や人生観などについて体験を交えながら話をしてもらっている。2・3年次の授業では企業の人事部長等を招いて、どのような人材が企業で活躍できるかなどの講演をもらっている。

また、キャリア形成科目では、講義終了後にレポートを提出させ、キャリアセンターのスタッフがゼミごとに分けて教員に渡し、教員から学生に返却している。「聴くことと書くことは基本ですので、その力を育成するのが目的です。また、ゼミの教員を経由することで、ゼミ生の様子を把握してもらうことができます」（福代室長）

## 大学の立地による就活の不便を 補うためのプログラムが充実

インターンシップは、複数のプログラムが設けられており、「地域政策プログラム」の科目として3年次に「行政体験実習（8月・9月に7日間、県浜田合同庁舎、浜田市役所）」が、「社会経済プログラム」の科目として3年次に「企業体験実習」（8月に10日間、浜田市周辺の企業）が配当されており、卒業単位に含まれる。ほかに、全学生・全学年を対象とした、鳥根県経営者協会や、厚生労働省管轄の社団法人が推進するインターンシップ事業などがある。

就職活動支援については、首都圏をはじめとする鳥根県外での就職活動に配慮した支援を充実させている。例えば、3年次の夏には「夏季合宿（首都圏等企業研究）」として、首都圏での就職を希望する学生約50名を募り、首都圏の企業訪問を行っている。「東京に行ったことのない学生もおりますが、1人で就職活動をしなければなりません。そこで、あらかじめラッシュ時の電車を体験するといった目的もあります。また、東京の企業を訪問することで『こんなところで働きたい』と、決意を新たにしている学生もいます」（福代室長）

また、大阪市や広島市、松江市で開かれる合同企業説明会に参加するための交通の便宜を図るため、会場への就活バスの運行や、浜田市内のホテルで学内企業説明会を開催している。学内企業説明会には、鳥根県内の企業のほか、東京や大阪など県外の大手企業の参加も多いという。

さらに、毎年2月下旬から4月下旬にかけ、首都圏で就職活動を行う学生のために、代々木オリンピックセンターの研修施設に、のべ900泊分を大学で確保して（宿泊費は学生負担）宿泊の便宜を図っている。

## 教職員や就活を終えた4年生が 学生をきめ細かにサポート

しかし「本学のキャリア支援プログラムは、他大学と比



【図表3】 島根県立大学キャリア支援プログラム

CONTENTS	1年 ●進路への意識づけ●		2年 ●キャリアプラン作成●		3年 ●就職活動の開始・内々定●		4年 ●就職内定・社会人への準備●	
	1st SEMESTER	2nd SEMESTER	3rd SEMESTER	4th SEMESTER	5th SEMESTER	6th SEMESTER	7th SEMESTER	8th SEMESTER
基本的考え方	キャリア形成 何のために働くか・職業観・社会人として生きること・キャリアとは何か キャリアプラン作成 自分の発見と分析・職業適性を考える		自己を取り巻く社会経済状況の研究・進路に合わせた企業研究・職種指導・主体的な進路選択 進路指導 模擬試験・論文・履歴書・エントリーシートの作成指導・面接など具体的な支援 就職活動支援					
授業科目	キャリア形成Ⅰ フレッシュマン・セミナーⅠ・Ⅱ		総合演習Ⅰ・Ⅱ、地域総合研究Ⅰ・Ⅱ		キャリア形成Ⅱ 総合演習Ⅲ・Ⅳ、地域総合研究Ⅲ・Ⅳ		総合演習Ⅴ・Ⅵ、地域総合研究Ⅴ・Ⅵ	
キャリアガイダンス			キャリア形成講座Ⅰ 社会人としての意識醸成			キャリア形成講座Ⅱ 就職活動に向けての実践的な知識・技能の修得		
インターンシップ	ハローワーク事業 大学インターンシップ事業		ハローワーク事業 大学インターンシップ事業		行政体験実習(授業科目) 企業体験実習(授業科目) ハローワーク事業 大学インターンシップ事業			
自己分析	●リクルート「R-CAP」(自己分析・適職診断テスト)の実施及びR-CAPの分析・活用セミナー ●キャリア形成・キャリア形成講座やゼミにて自己分析の方法について講義							
業界研究・企業研究(実践編)					OB・OG訪問 企業合同説明会(就活/バスの運行) 首都圏等企業研修(夏季合宿) 学内企業説明会 (夏季休業中、東京・大阪、松江) 学生キャリアサポーター			

※『2010年大学案内』より 採用試験対策資格取得講座、語学検定試験は割愛

べて非常に先進的というわけではない」と別枝学部長は言う。高い就職率を達成できる理由は、プログラムではなく、教職員や就職活動を終えた4年生による学生支援にこそあるのだ。

「学生数が少ないこともありますが、教職員、特に職員は本当によく学生に声をかけており、一人ひとりがどんな進路を希望し、どんな弱みを持っているかを把握しています。3年次になると外部講師による模擬面接を行います。キャリアセンターの職員が同席して質問したり、後日相談にのったりします。2009年度からはゼミの教員も可能な限り模擬面接に加わっています」(別枝学部長)

「キャリアセンターの職員は夏季の首都圏の企業訪問に同行し、就活バスにも同乗するため、これらの機会に学生と親しくなります。きめ細かな支援が必要である一方、手をかけすぎても学生の自立を阻害しますので、塩梅が大切です。今後は学生グループで企業研究や業界研究をさせるなど、自主性を伸ばすプログラムを取り入れることを検討中です」(福代室長)

なお、専任のキャリアアドバイザーが2人おり、1人は浜田キャンパスと松江キャンパスを担当して、就職活動に関する「よろず相談会」を開催するなどしている。もう1人は東京に駐在し企業訪問などを行うほか、就職活動時には学生が宿泊する代々木オリンピックセンターを頻繁に訪れ、相談に応じている。

また、毎年7月の末には就職活動を終えた4年生の中から25名程度、なるべく全ゼミから「学生キャリアサポーター」を依頼し、各種就活相談会や就活総決起集会へ参加

【図表4】 2009年度キャリア形成科目の内容

授業名	対象等	内容等
キャリア形成Ⅰ	1年次、必修	キャリアデザインの必要性を理解させ、大学で何を学ぶのか、どのような大学生活を過ごすかを自ら考えさせる。
キャリア形成講座Ⅰ	2年次	大学生活は「社会に出るための準備期間」という意識付けと、学ぶことの大切さを理解させる。
キャリア形成Ⅱ	3年次、必修	<目的> 望ましい職業観や職業に関する知識や技能の涵養。自己個性の理解やグローバル化など自己を取り巻く環境等を見据えた上で主体的に進路を選択できる能力や態度を育成。 <内容> 民間企業等の幹部職員等による講演、先輩の体験報告会、島根県立大教員等による講座
キャリア形成講座Ⅱ	3年次	<目的> 業界研究・企業研究の深耕、採用試験対策などにおける実践的知識や技能の涵養 <内容> 民間企業等の採用担当者による講演、エントリーシート対策や面接対策など

したり、相談にのるなどの3年生へのサポートをしている。

最後に、同大は、在校生のキャリア形成支援だけでなく、卒業後も含めた支援をしていきたいと考えているという。今後のキャリア教育を考えるにあたり卒業生を対象に離職に関するアンケート調査を行ったところ、これまでの卒業生で新卒採用された企業をすでに離職した者は24%と、厚生労働省の調査(34.2%注)よりは低かった。しかし、これは回答者を寄せた卒業生を分母とする割合であり、「実際には離職率はもう少し上がるはず」と楽観はしていない。今回の調査で多くの卒業生と連絡がとれたことや、同窓会の組織化が進んでいることを受け、「卒業後も、大学が離職を考えているときの相談窓口としての役割を果たせるシステムを作りたい」と考えている。

(注) 厚生労働省職業安定局集計 2006年3月大学卒業者の3年以内の離職率